

モノオト

症候群
シンドローム

最終号



式千拾貳年漆月拾玖日



藍糸

—アオイイトー

～月涼し 星天に捧ぐ逢いの宴～

2012.7.6(fly) @吉祥寺 SHUFFLE

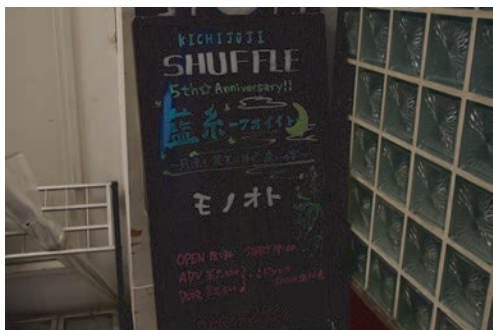
2012年7月6日金曜日、モノオト2回目となるワンマンライブが吉祥寺 SHUFFLE にて開催された。

前回のワンマンライブはESP ミュージカルアカデミーにて、学生が企画し、学生と共に造り上げ、成功におさめたが、今回は全てがモノオト主体となっている。

数カ月前からレコーディング・ラジオ出演・スタジオ練習など多忙なスケジュールの上、このライブに向けての準備でメンバーには疲れが見えたがワクワクしている様子だった。

入口でチケットを引き換えると手作りのフライヤーに小さな短冊がついていた。

そう、明日7月7日は七夕と康平の誕生日である。ただのワンマンライブにはならないこと間違いないであろう。



会場に入ると、1番に目にしたのが物販だ。

通常の物販に加えこの日の為に用意した物が並んでいた。ワンマン限定。しかも手作り。相当気合いを入れたのだろう。

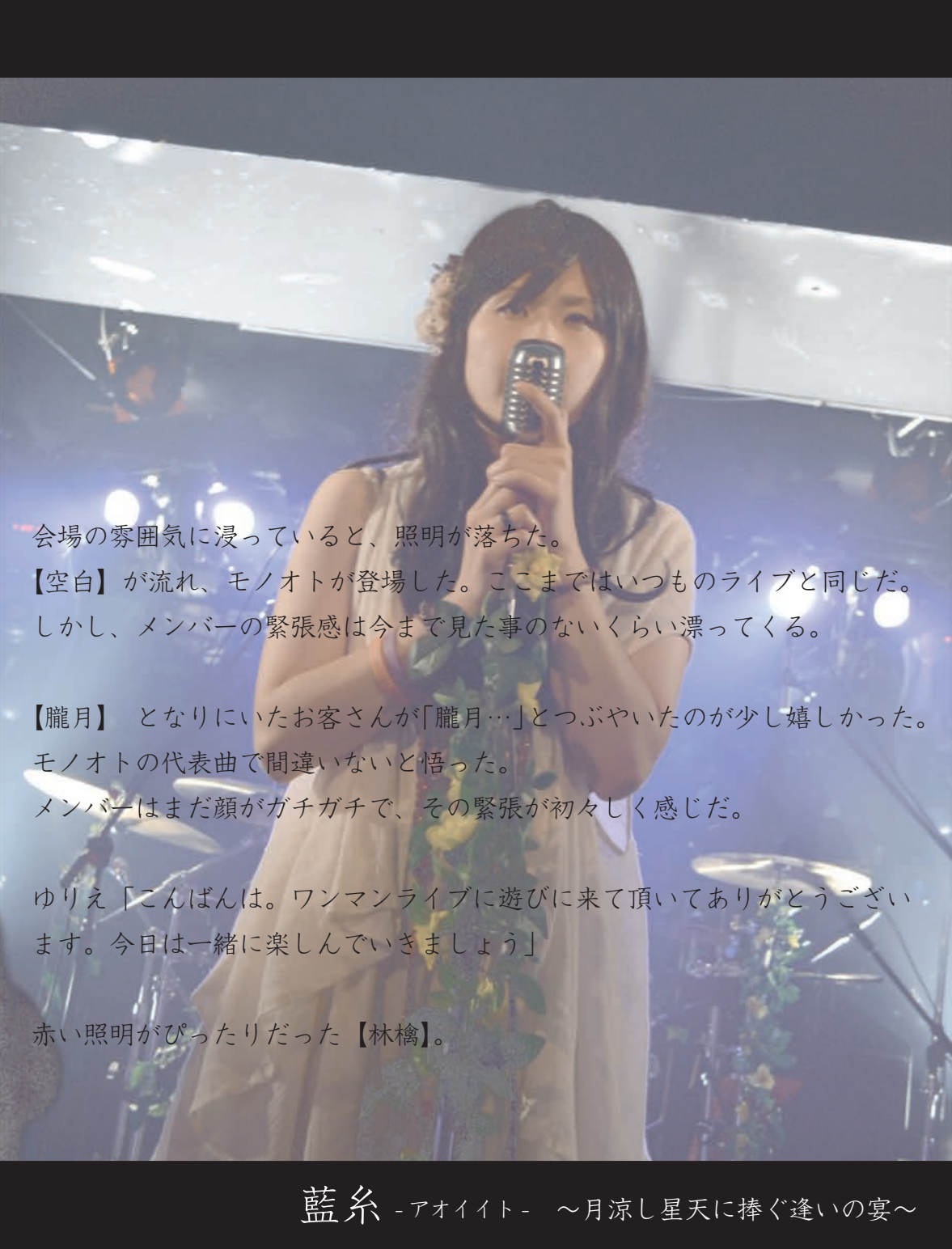


レコーディングの合間に康平がせっせと作っていたストラップ。お洒落な雑貨屋さんにも置いていてもおかしくないバスソルトなどが並んでいた。



物販の反対側の壁を見るとメンバーのライブ写真と天の川。会場準備中にゆりえが「こうちゃん～天の川ってどんなかんじ～？」と楽しそうに作っていた。

ステージはマイクスタンドには葉っぱが巻き付き、会場全体、モノオトの世界観で溢れていた。



会場の雰囲気浸っていると、照明が落ちた。

【空白】が流れ、モノオトが登場した。ここまではいつものライブと同じだ。しかし、メンバーの緊張感は今まで見た事のないくらい漂ってくる。

【朧月】となりにいたお客さんが「朧月…」とつぶやいたのが少し嬉しかった。モノオトの代表曲で間違いないと悟った。メンバーはまだ顔がガチガチで、その緊張が初々しく感じた。

ゆりえ「こんばんは。ワンマンライブに遊びに来て頂いてありがとうございます。今日は一緒に楽しんでいきましょう」

赤い照明がぴったりだった【林檎】。

「深い夜に 君の言葉を思い出してはそばにいたいと思う 【藍ノ夜】」

モノオトの曲の中で一番感情的なこの曲。ゆらゆら浸って聴いているお客さんが多くいた。

曲中の「そっと髪をなでて」でゆりえはお客さんを虜にした。

MCで軽く挨拶をし、お客さんと絡む。

「次の曲は皆さんたくさんつらい事があったと思いますが…」から始まったのが【暁闇】。新曲だ。

「けっきょく生きていくのは今だから」という言葉には感情がこもっていて印象的だった。

ロックチューンだけどどこか切ない。

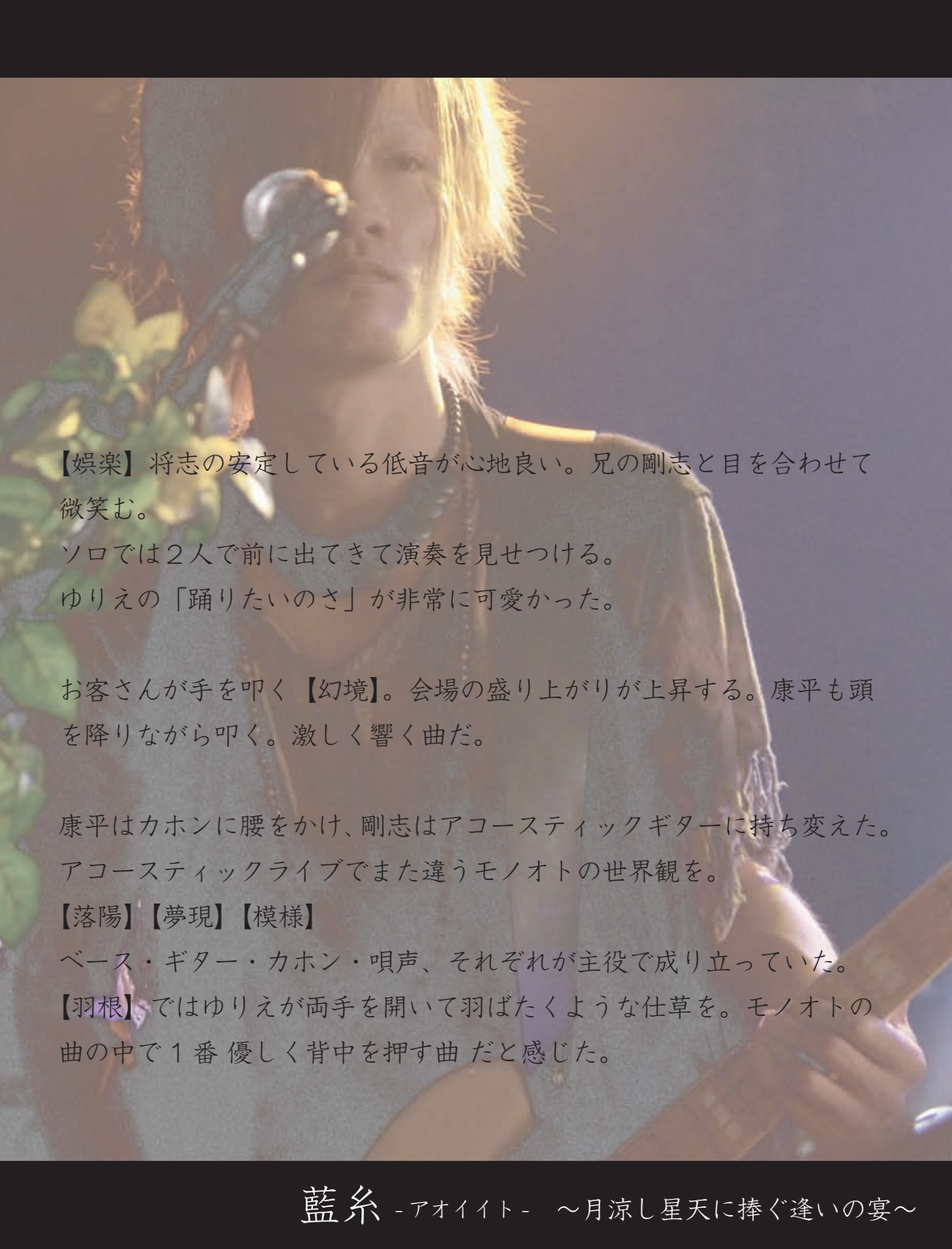
「願うはあなたがここで笑うこと」

康平が大きく腕を振り上げドラムを叩く。

メンバーの緊張感がほどけ、表情が柔らかくなってきた。

「今日は雨が降っちゃいましたね。ちょうど良かった。」【雨降】

ゆりえはハンドマイクに持ち変える。



【娯楽】 将志の安定している低音が心地良い。兄の剛志と目を合わせて微笑む。

ソロでは2人で前に出てきて演奏を見せつける。

ゆりえの「踊りたいのさ」が非常に可愛かった。

お客さんが手を叩く【幻境】。会場の盛り上がり上昇する。康平も頭を降りながら叩く。激しく響く曲だ。

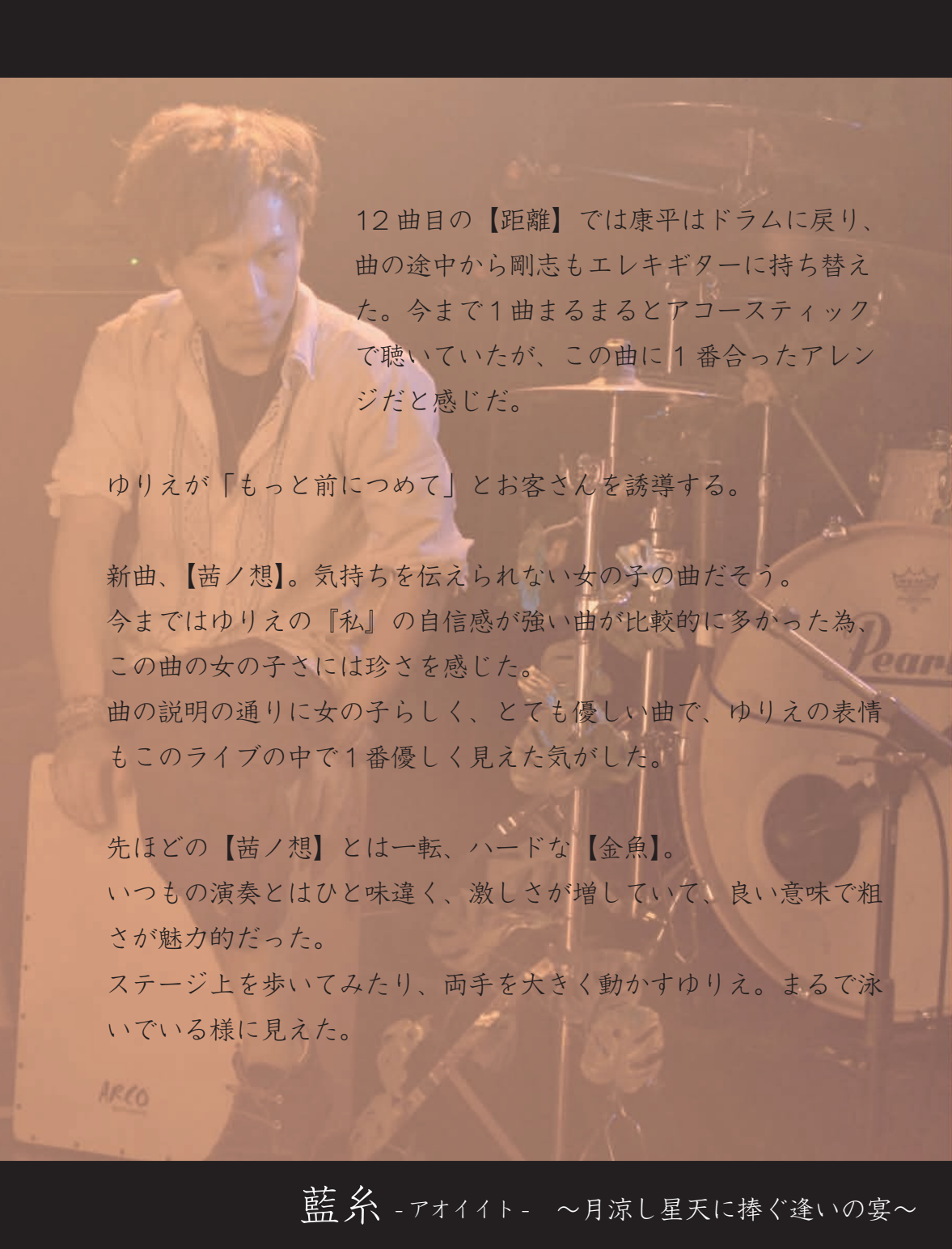
康平はカホンに腰をかけ、剛志はアコースティックギターに持ち変えた。

アコースティックライブでまた違うモノオトの世界観を。

【落陽】【夢現】【模様】

ベース・ギター・カホン・唄声、それぞれが主役で成り立っていた。

【羽根】ではゆりえが両手を開いて羽ばたくような仕草を。モノオトの曲の中で1番優しく背中を押す曲だと感じた。



12曲目の【距離】では康平はドラムに戻り、曲の途中から剛志もエレキギターに持ち替えた。今まで1曲まるまるとアコースティックで聴いていたが、この曲に1番合ったアレンジだと感じた。

ゆりえが「もっと前につめて」とお客さんを誘導する。

新曲、【茜ノ想】。気持ちを伝えられない女の子の曲だそう。

今まではゆりえの『私』の自信感が強い曲が比較的が多かった為、この曲の女の子さには珍さを感じた。

曲の説明の通りに女の子らしく、とても優しい曲で、ゆりえの表情もこのライブの中で1番優しく見えた気がした。

先ほどの【茜ノ想】とは一転、ハードな【金魚】。

いつもの演奏とはひと味違く、激しさが増して、良い意味で粗さが魅力的だった。

ステージ上を歩いてみたり、両手を大きく動かすゆりえ。まるで泳いでいる様に見えた。



MCではメンバー、お客さんの笑顔が多く見え、笑いが絶えなかった。このときにはもう既に、モノオトとお客さんには壁は無かった。

康平→将志で始まった【戯画】。

ライブでは必ずと言っていい程、攻撃曲となっている。



メンバーそれぞれが自由に演奏して、自由に唄っている。

曲中では一人一人のソロパートでゆりえからのメンバー紹介。剛志の満面の笑み。

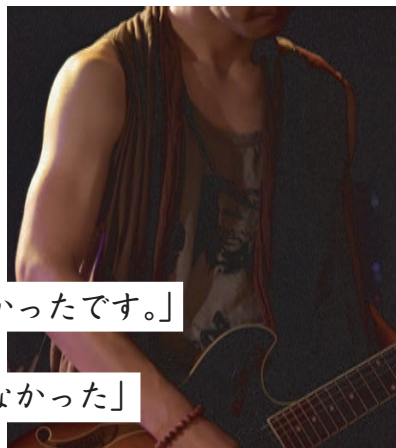
「最後の曲です。今日は本当にありがとうございました。」



最後に残された曲は、裏の代表曲【夜半】。畳み掛ける様に始まった。

安定感のあるこの曲は、後ろにいるメンバーを信じて気持ち良さそうに唄うゆりえの姿と、ノリノリなお客さんが印象的だった。

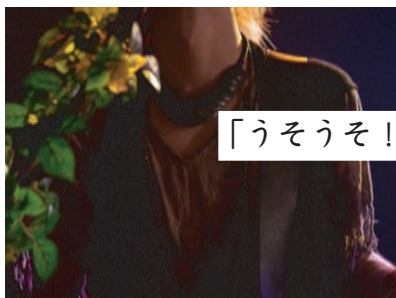
ソロでは剛志と将志の兄弟が前に出て来て、向き合って弾く姿にどこか安堵感をもたらした。それを見守る康平の優しさを感じた。



「いっぱい唄ってくれている人がいて嬉しかったです。」

「人のカってすごいな。一人じゃ何も出来なかった」

「2週間近く、メンバーと一緒にいる時間が多かった やだねー（笑）」



「うそうそ！私、メンバー大好きだから嬉しいです♪」

「SHUFFLEの皆さん、スタッフの皆さん今日来てくれた皆さん、本当に今日はありがとうございました。」



「ここで唄っててよかったな。」



あまり自分の感情を出さないゆりえが照れながら話した。

「これからもずっとずっとモノオトをよろしくお願いします。」

新曲【夢追】。このライブの為に作り上げてきた新曲の数にびっくりした。

モノオトは会場を後にした。

会場には鳴り止まない拍手が響く。

モノオトが再び現れると、拍手のスピードは増した。

「にぎやかなアンコールありがとう！」

秋にツアーをやることが決定したことをお客さんに報告。

今日やった新曲も聴くことができるであろう。

『ソメルアオ、トキノクウハク』

語りかけではじまったのがこれもまた新曲の【染メル藍 時ノ空白】

新曲なのであまり感想は書けないが、壮大なナンバーであること間違いない。

「次で本当に本当に最後です」

手拍子が沸き起こる。【侏楽】。

メンバー4人で頭を振るい、最後の曲なのに今日1番の激しさを魅せ、19曲全てやりきった。



ライブ終了後、メンバーお揃いのモノオトTシャツを着てステージ場に現れ抽選会が始まった。

将志、2がつく数字を選びたいが為、何度もくじを引く。たけしも番号を選ぶ。抽選の意味が無いのでは…（笑）



当選者と3月のライブからの皆勤賞の方（2人いました!）にはモノオトのグッズをプレゼント。

これでもうライブ終了かと思いきや、最後に次の日誕生日の康平のバースデイサプライズ! ケーキが登場し、開場全員でハッピーバースデーを唄う。

康平には内緒で計画してきたので康平は大喜び。ゆりえ、剛志、将志も笑顔を絶やさなかった。



幕が下りる瞬間、剛志と将志はハグをされていて、最後の最後に緊張の糸は解れたと感じた。

会場にはBGMで【夜半】が流れ、周りのほとんどの人がロずさんでいた。



END

藍系 -アオイト- ～月涼し星天に捧ぐ逢いの宴～

終演後アンケート

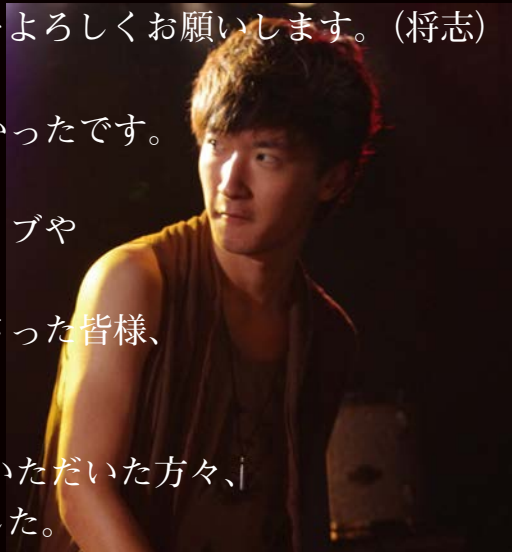
ワンマンから後日、
それぞれにコメントをもらった。

沢山の人に遊びに来てもらえて嬉しかったです。
ステージだけじゃなく、物販・七夕飾りなども
楽しんでもらえていたら嬉しい。
ライブ中、一緒にうたってくれたり、
手拍子してくれたり、本当に嬉しかったです。
Dr. 康平の誕生日も祝えてよかった。
次回はもっともっとパワーアップした
モノオトを魅せられるように…。(ゆりえ)

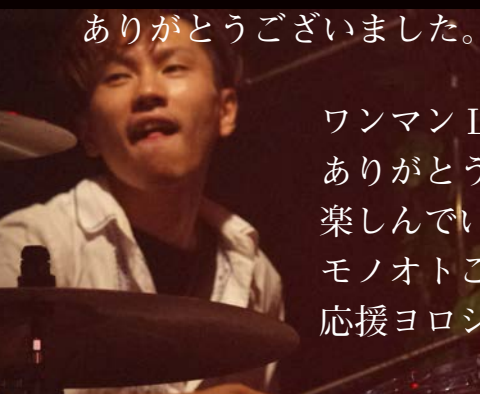



あっという間でした。
ライブ自体は正直覚えてません。
まあ楽しかったのは確かですけどね。
来てくれてありがとうございました。
これからもモノオトをよろしくお願いします。(将志)

たくさんお客様の前で演奏できて良かったです。
ステージの上から見た光景を忘れず、
もっと大きくなって次のワンマンライブや
今後に繋げていきたいです。
今回のワンマンライブに携わって下さった皆様、
ありがとうございました。(剛志)



ワンマン Live、来ていただいた方々、
ありがとうございました。
楽しんでいただけましたでしょーか！？
モノオトこれからも活動を続けていきますので、
応援ヨロシクおねがいます☆テヘペロ♡ (康平)





RECORD

第三弾

レコーディングに 潜入

[07/02 ボーカル録り]



今回は主にゆりえがメイン。
レコーディングブースから
戻ってくるたび、疲れのせい
かため息をついていた。
1フレーズずつ細かく録って
いきながら、康平が中心とな
り最後まで煮詰めていく。
そうすると、AメロとBメロ
だけで1時間ほど経過してい
た。
他のパート録りよりもやはり
繊細で、ひとつの音を集中し
て聴いている。
そしてゆりえは、レコーディ
ングの時も裸足であった。

モノオト

症候群
シンドローム

をご購読の皆様へ大事なお知らせ

突然ですがモノオト症候群は今号で最終号となります。

いつもモノオト症候群をご購読頂き、ありがとうございました。

引き続き、モノオトを宜しくお願い致します。





著作権について

この雑誌「モノオトシンドローム」の著作権はモノオトが保有しております。本誌を閲覧されるお客様は、個人的に利用される場合に限り、公衆回線／専用回線を通して、本誌をお客様の端末に表示すること、複製保存することが認められております。

下記の行為は、著作権及び著作者人格権侵害となるため、禁止します。

- (1) 本誌 PDF データの全部または一部を修正、変更、翻案、編集、切除等、改変する行為
- (2) 本誌 PDF データの全部または一部を解析したり、派生物を制作する行為
- (3) 本誌 PDF データを第三者に複製、複写、頒布、貸与、譲渡、自動公衆送信する行為